

専修大学創立130年記念事業 生田10号館(仮称)新築工事

2007年(平19)3月完成に向け基礎工事進む

昨年着工した生田10号館(仮称)の新築工事は、11月の準備工事を経て、12月から旧野球場や遊歩道の設備を撤去したあと山留工事、杭打工事といった土木工事が進んでいる。

建物の杭を埋め込む基礎工事では、117本の杭を埋設しているが、最大で直径1.2メートル、長さ21メートルのものもあり、強固な基礎が築かれている。2月中旬からタワークレーンが搬入され、いよいよ本格的な建物本体工事が始まる(工事の進行状況はホームページで紹介しています)。



生田10号館(仮称)完成予想図

06年度(平18)地区入試

2月1日、新たに金沢会場を加え、全国11会場で行われた地区入試から、06年度入試がスタート。

- ・専大での学生生活をご紹介—「受験生特集」
- ・2006(平18)年度入学試験志願者状況



「受験上の注意」を聞く緊張の時(神田キャンパスで)

「冬季日本語・日本事情プログラム」開講中

29人が勉学に励む

「2006年冬期日本語・日本事情プログラム」がスタートした。今回はリヨン第2大学からの参加者が10人と多く、国際交流協定校を中心に11カ国・地域から29人が参加した。約50日間の勉学・研修に励んでいる。

開講式と歓迎パーティーは1月16日、生田キャンパスで開催され、参加の短期留学生たちを大林守国際交流センター長はじめ教職員、学生たちが温かく歓迎。三曲研究会の演奏も披露された。

地元・東生田在住の参加者、ジェーン・マクマナスさんは「夫と共に英国ウェールズから来日して2年目です。インターネットでこのプログラムを知り、少しでも日本語を上達させたいと参加しました。若い学生に囲まれ、とてもやりがいを感じています」とにこやかに語った。



歓迎パーティーで

板坂ゼミが台本作り

若々しさと斬新な感覚—オペラ「八犬伝」上演

文学部の板坂則子教授と板坂ゼミ生が台本作りなどに参加したオペラ「八犬伝」(監督、作曲・仙道作三)が、1月28、29の両日、東京の「北とぴあ」さくらホールで上演された。

台本に若い感覚が宿った全3幕は、自由な発想、斬新な構成で展開。言葉の美しさにこだわり、原作の名文が入るかと思えば現代の流行語やリゴレットの「女心」、カルメンの「ハバナナ」まで飛び出す楽しさ。フィナーレでは、出演者、スタッフと共に板坂教授と学生たちも壇上に上がり、大きな拍手を浴びていた。



板坂教授、仙道監督(左から3人目、4人目)を囲んで スタッフとして活躍した学生、卒業生

「高大連携」後期の修了式

高大連携で大学の講義を受講している聴講生9人(うち2人は2科目受講)に対する後期修了式が1月14日、生田キャンパスで行われた＝写真。

授業担当教員から修了証書が手渡された後、聴講生、担当教員、サポーター学生が感想を述べ、教職版インターンシップとして、協定校で研修を行った教科研修生2人から報告がなされた。



県立ひばりが丘高生「一日体験入学」

高大連携協定校である神奈川県立ひばりが丘高校(多田野昌弘校長)の国際教養コースに学ぶ2年生40人が、12月19日、生田キャンパスを訪れ、経済学部国際経済学科の模擬授業を受講した。キャリアガイダンスとして、本学の留学経験学生からの体験談を聞いたり、キャンパス探検をしたりと充実の1日を過ごした。



常行敏夫経済学部教授から講義を受ける生徒ら

専大北上高校 / 専大玉名高校

全国大会で活躍

専修大学北上高校

専修大学北上高校(黒沢勝郎校長・岩手県)の吹奏楽部は、大阪城ホールで11月20日に開催された第18回全日本マーチングバンドコンテストで、見事銀賞を獲得した。全国大会出場は5年連続。99人の部員が、ベートーベンの「運命」「ソナタ」「スケルツォ」「歓びの歌」を披露。力強く美しい演奏とキレのいい動きをアピールした。



専修大学玉名高校

専修大学玉名高校(森宏校長・熊本県)の吹奏楽部は12月18日、さいたまスーパーアリーナで行われた第33回マーチングバンド・バトントワーリング全国大会に九州代表として4年連続出場し、小編成の部銀賞(2位)を獲得した。生田・神田両キャンパスで最終調整を行い、万全の体制で臨んだ44人の部員は「Mr. インクレディブル」「ルパン三世」ほかを元気いっぱい披露した。

